

る児童がいました。これに対し「家にいる時間がしあわせだと思える環境にいることが、しあわせなのだと思う。」という意見がさらに出て、「しあわせ」の本質を追究していくような議論をするグループがありました。

「今の私のしあわせ」についての意見交換を深めていくにつれ、どのグループも自然と「みんなのしあわせ」についての議論に進んでいきました。

「今、給食は一人で黙食しているけれど、周りの人としゃべりながら食べていた時の方が楽しかったし、おいしく感じた。みんなと一緒に何かすることが大切なかもしれない。」など、みんなの存在の大切さに気付くことで、「みんなのしあわせ」が大切であると自分たちで辿り着くグループがありました。ほかにも、「みんなが笑っていたり楽しんでいたりする様子を見ると自分も嬉しいから、「みんなのしあわせ」と「自分のしあわせ」は同じことだと思う。」と話す6年生もいました。



6年生と大人が対等に話し合える雰囲気が、どのグループにもありました。



短い発表の時間でしたが、話し合ったことをうまくまとめて説明してくれました。

③各グループの発表

最後に各グループが議論の内容を発表し、全体で共有しました。あるグループは、「何がしあわせかは人それぞれ違う。また、同じ物事に対してしあわせと感じる度合いも人それぞれ違う。」とし、多くの人を感じるしあわせを「大きなしあわせ」、少ない人しか感じないしあわせを「小さなしあわせ」と表現しながら、「大きなしあわせと小さなしあわせの両方を大切にすることが必要である」と発表してくれました。また、「みんなが考えた「しあわせ」でイメージするそれぞれの言葉は、全く

別のようにも、どこかでつながっている」と発表したグループもあり、「今の私のしあわせ」を伝え合うところから始まった議論が、グループによってさまざまに深まっていたことが分かりました。

意見交換会を振り返って

今回の意見交換会は、学校運営協議会委員の「子どもたちに「杉並区教育ビジョン2022」で掲げている「みんなのしあわせ」について考えてほしい」という思いから企画されました。そして今回の6年生の意見を、杉並第三小学校の新しい学校教育目標につなげていくこととしています。

ある6年生が「今の私にとってのしあわせ」は「将来いい暮らしをすること」と話していたことがとても印象的でした。将来のために今何が必要かを自分で考えて、投資のことなどを自分で調べて勉強し、今が充実しているとのことでした。「今のしあわせ」を考えるときに将来のことに発想を飛ばせる児童の柔軟な考えに感銘を受けました。

第7回「杉並区教育ビジョン2022」意見交換会 報告書

- ・開催日 令和4年9月10日
- ・参加者 杉並第三小学校6年生

令和4年10月 編集・発行 杉並区教育委員会 庶務課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111